

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 334

■ 車両分解活動・部品ベンチマーク活動

「BYD ATTO3 及び KAWASAKI Z e-1 分解活動報告」

並びに「会員企業による分解調査結果報告会」（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様が次世代自動車向けの部品製造にチャレンジできるよう、車両分解活動や部品ベンチマーク活動などを通して、次世代自動車技術に関する情報提供を行っています。

今回、昨年度より分解調査活動を進めてきました中国メーカー製最新EVの「BYD ATTO3」と、本年度に購入して分解調査活動を進めてきました日本製最新二輪EVの「KAWASAKI Z e-1」に関して、当センターの望月センター長による分解調査活動の報告と分解部品の展示を行いました。

また、来年度に向けて予定している「SUZUKI eVITARA」及び「BYD SEALION 7」に関するベンチマーク活動についての説明と車両の展示も行いました。

さらに、本年度に当センターのベンチマークルーム展示部品に関して詳細調査・分析を行った会員企業の皆様に、その調査結果の一端を発表していただきました。

■日 時： 2026年1月29日（木）10時30分～16時

■場 所： アクトシティ浜松 展示イベントホール

■参加者： 82社／160名

【BYD ATTO3 及び KAWASAKI Z e-1 分解活動報告】

<開会>

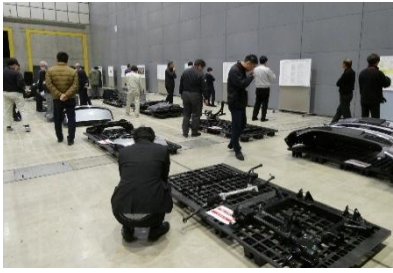


<車両分解活動報告>



<車両分解部品の展示>





＜今後のベンチマーク活動について：SUZUKI eVITARA・BYD SEALION7 の展示＞



【会員企業による分解調査結果報告会】

＜大阪ガスケミカル(株) 様＞



＜(株)オティックス 様＞



＜KOA(株) 様＞



＜中西金属工業(株) 様＞



＜日本特殊陶業(株) 様＞



＜ヤマハ発動機(株) 様＞



＜望月センター長によるまとめ＞



【参加者の声】

＜全体＞

- ・分解結果はかなり深掘された情報もあり、各社の動向も見られて、とてもためになる報告会だった。
- ・全体として大変有意義な情報が得られた。ただの分解で終わるのではなく、開発のため、地域企業の更なる発展のため、という姿勢がそうした成果を上げた理由と思った。

＜BYD ATTO3・KAWASAKI Z e-1 分解活動報告＞

- ・通常のベンチマークでは得られない詳細な情報や活動のステップ等を学ぶことができ、大変参考になった。
- ・BYDやKAWASAKIの最新車両の熱マネジメントを学ぶことができ、非常に良かった。
- ・実車と詳細な資料により、部品の構成や狙いとする設計の理解が深まった。
- ・様々な視点で自動車、二輪部品の開発に向けた調査ができる気付きとなった。
- ・カーメーカーの差別化を図るための工夫を学べた。
- ・中国E Vの部品構成や考え方、サプライチェーン等、詳細が理解できた。
- ・中国E Vが日本車より先進的であることに驚きを感じた。
- ・具体的に部品を解説し、ビジネス面でサプライヤーリストもあり、実部品を実際に触れて重さなど感じられて良かった。
- ・BYDのパワーユニットについて説明がわかりやすかった。ボディのカット断面についても構成がわかりやすく参考になった。
- ・パワートレインと熱マネ以外に車体の構成と作り方、部品メーカー一覧が詳細で驚いた。
- ・部品サプライヤー情報(伝送品目メーカ、サプライヤ等)が詳細にまとめられて良かった。
- ・8 in 1のパワーユニットのレイアウト優位性、コストダウンに対する見解が非常にわかりやすかった。
- ・KAWASAKIについて、個人的に興味を持っていたが、駆動系の説明や走行継続距離の課題等について、ていねいに説明していただき理解しやすかった。
- ・分解展示も参考になったが、それだけでなく各コンポーネントのスペックや考察など、とても有用性のある内容だった。
- ・二輪E Vは、原付クラスであれば代替として普及するだろうと思っていたが、小型バイクとしては、航続距離など、まだ課題が多々あるように感じた。
- ・バイクのE V化は非常に難しい開発だということが理解でき、今後の動向に注視したい。
- ・電動バイクのパワートレインもユニットの統合が進んでいることを知った。
- ・BMWや他の二輪E Vとの比較により、どの性能を重視した製品かわかりやすかった。

＜会員企業による分解調査結果報告会＞

- ・他社がどのような取組みをして考察をしているのか、自分の会社にいるだけではわからないことを知ることができた。
- ・毎回違うサプライヤーさんからの報告が刺激になる。
- ・他社がベンチマークをどのように活用しているか知ることができた。
- ・各専門の企業の分解解析結果を聞くことができ、解析方法などいろいろ参考になった。
- ・各メーカー様の独自の観点でベンチマークしている発表が、非常に興味深く拝聴した。
- ・他社の分解調査から、性能評価を実施していた試験を見ることができて非常に良かった。
- ・部品を活用して、調査結果を出すまでのストーリーが見えて参考になった。
- ・各社真剣に部品と向き合っておられる様子に刺激を受けた。
- ・1つの部品を意味を考えながら分析し、再考することによって、より深く部品を知ることができると感じた。今後、少し深掘りして、部品を考えていこうと思った。
- ・各社独自のビジネスにリンクしてベンチマークされているところが参考になった。
- ・カメラ樹脂、減速機、抵抗器、ゴム、熱センサ、二輪ベルト等幅広く学ぶことができた。
- ・㈱オティックス様のリングギヤ精度と組立方法、インロー部での組付け精度確保、圧入時の変位にはバックラッシュ精度が参考になった。
- ・日本特殊陶業㈱様の取組が非常に参考となった。新ビジネス化に向けた考え方を学べた。